

未来を日本を担う子供たちのために

香教連

香川県教職員連盟 香川県教職員連盟 香川県教職員連盟
 発行所: 香川県教職員連盟 香川県教職員連盟
 発行所: 香川県教職員連盟 香川県教職員連盟
 〒760-0004 高松市西宮町2丁目4番60号 香川県教育会館202号
 TEL (087) 835-2721 FAX (087) 835-2723
 http://www.kakyoren.com/ E-mail: info@kakyoren.com
 毎月10日発行 定価1000円(年刊1000円 送料も含む)
 会員の購読費は会費の中にも含む



教職員定数の改善、人材確保法の趣旨の尊重、文教予算の確実な執行のため、署名活動にご協力を!

人事院は八月六日(木)一般職国家公務員の平成二十七年度の給与とボーナスについてともに引き上げよう国会と内閣に勧告した。月例給・ボーナスともに二年連続の引上げは十四年ぶりとなる。しかしながら学校における多忙感の解消等課題は山積している。

これらの現状を鑑み、子どもたちに向き合い、質の高い教育を提供するためには、私たちの声を国や県に届けなければならぬ。各単組事務局より配布されるリーフレット、署名簿をお読みいただき、趣旨にご賛同いただき、多くの方々に署名していただけるようお願いする。

要望の趣旨は以下のとおりである。

教職員定数の改善

学校現場の現状は平日の過密化や膨れ上がる事務作業等により多忙を極め、教職員の本来の業務に支障を来している状況にある。多様化・複雑化する教育課題に対し、学校現場が適切に対応するためには計画的・安定的な教職員の増員を図り、子どもたち向き合う時間を確保することが不可欠である。

人材確保法の趣旨の尊重

このような厳しい勤務状況にも関わらず、真に子供たちのためになる教育をしようとする教職員は多くいる中、国や地方の厳しい財政状況により、教職員給与は縮減されている。このままでは誇りとやりがいを持って職務に専念する意欲が低下するばかりか、香川に優秀な人材を確保することも困難になる恐れがある。そこで人材確保法の趣旨を尊重し、教育専門職として、ふさわしい給与待遇にしておく必要があると考える。

義務教育費国庫負担制度の充実

国庫負担法が改正され、多くの教育費が地方交付税となったため、教材費や図書費等、削減されているようになってきた。このため、教育環境の地域格差が拡大している。日本全体の教育水準の維持向上を図るためには、教育予算に関して、国が責任をもって講じる必要がある。

署名・要望の成果大

昨年度、県内で六六〇枚、三、三〇〇名の署名が集まった。署名ならびに要望の成果として、給与局までお願いしたい。

ボ・ナスの引き上げ、地域手当の増額、中学校一年生での一学年三十五人以下学級が実現したい。

香川県教職員連盟は、結成四一年を迎えた子供中心の教育を目指し、健全なる批判力を持つ、県内最大の教職員団体です。

香川県の未来を担う子供たちのために



参加者全員で

八月十八日(一)九月、全日教連主催「青年教育者ム二〇一五」が開催された。香教連からは、高松市立白鳥小学校・前田和美教諭、坂出市立東部小学校・山田那央子養護教諭、坂出市立立東部小学校・白川未来養護教諭の三名が参加した。

一日目は、都市センターホテルにて岩野伸哉・全日教連委員長による講話と、「いじめ」に「対する」ための必要だと思うこととをテーマとするワークショップ、二日目は、自由民主党本部にて堀井学・衆議院議員との教育懇談会、国会議事堂視察等、充実した二日間であった。

参加者の感想を以下に掲載する。

全日教連の理念や取組などがよく分かった。教育現場の現状をよく分かってもらい、改善していくために組織で動いて働きかけていくことは大切であると思った。

ワークショップはグループに分かれて、「いじめ」について話し合っ

た。果ては、中核は週一回アンケートを行って、どの県もあった。校種によっても解決方法が異なっていた。

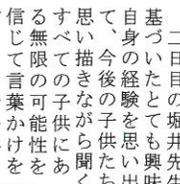
全国から参加された先生方と意見交換する中でそれぞれの先生方と意見交換する中で、それは「子供をよくしたい」という気持ちであった。何をよくしたいのかを考えると、子供のためにどうするか、それがベストなチームとして動くこと、大切なのは「夢への挑戦」のお話を聞き、言葉かけの大事さ、イメージ

ワークショップの様子

ジトレーニングをすることで、自分の将来を具体的に想像し、夢の実現に近づけるなどこれからの教育のヒントをもらったように思う。

日頃関わるような他県の先生方との情報交換をはじめ、ワークショップの中では学校内でのことや子供のかかわり等についてのお話やすることができ、大変有意義な時間を過ごすことができた。

二日目の堀井先生のお話は経験に基づいたとても興味深いお話で自身の経験を思い出しながら、そして、今後の子供たちのかかわりや思い描きながら聞くことができた。すべての子供に無限の可能性を信じて言葉かけをする中で子供たちの未来を明るくものにしていくと思った。



発表する参加者

四国合同教育研修会開催

七月二十五日(土)、平成二十七年「四国教育者研修会」が徳島グラウンディオホテルにおいて、四国日本教育文化研究所加盟団体と四国四県高等学校教職員組合連絡協議会(四高連)との合同研修会として開催された。香教連参加者二名を含め、四国四県から約六〇名の会員が参加した。開会行事の後、副島賢和氏による、講演が行われた。

講演は、「こころの音が言葉になるとき」院内学級の子供たちが切れた大切なとき、その不安や心配を解きほぐすこと、もっと自分を大切に

ついでにお話しいただいた。その中で、院内学級の子供たちは様々な不安を抱えている。その不安や心配を解きほぐすこと、もっと自分を大切に

ついでにお話しいただいた。その中で、院内学級の子供たちは様々な不安を抱えている。その不安や心配を解きほぐすこと、もっと自分を大切に

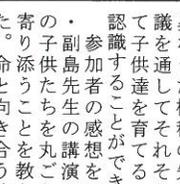
ついでにお話しいただいた。その中で、院内学級の子供たちは様々な不安を抱えている。その不安や心配を解きほぐすこと、もっと自分を大切に

異なった校種の先生方のグループ討議を通してそれぞれが連携を密にして子供達を育てることの大切さを再認識することができた。

参加者の感想を以下に掲載する。

副島先生の講演からは「一人一人の子供たちを丸ごと理解し受け入れ寄り添うことを教えていただきました。命と向き合う院内学級の子供との出会いは教育の原点だと感じました。もつと自分を大切に思い、よい」といいます。

「(今日はできなかったから)明日やろう。明日は明日の保障のない子供たちには通じない」という副島先生のお話に胸に突きささった。「来年やろう」自分にとってはやり直せるが今年の子供たちにとっては一生に一回だけである。毎日毎日全力で取り組まなければと強く誓った。



グループ討議の様子

ついでにお話しいただいた。その中で、院内学級の子供たちは様々な不安を抱えている。その不安や心配を解きほぐすこと、もっと自分を大切に

ついでにお話しいただいた。その中で、院内学級の子供たちは様々な不安を抱えている。その不安や心配を解きほぐすこと、もっと自分を大切に

ついでにお話しいただいた。その中で、院内学級の子供たちは様々な不安を抱えている。その不安や心配を解きほぐすこと、もっと自分を大切に

ついでにお話しいただいた。その中で、院内学級の子供たちは様々な不安を抱えている。その不安や心配を解きほぐすこと、もっと自分を大切に

